

# 平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

## 広島市立福木中学校

### 1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成 26 年 4 月 22 日 (火)

### 3 調査実施学校数 (公立学校) 等

区 分	調査実施校数 (校)			調査実施者数 (人)			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第 6 学年	20,395	489	140	1,080,663	24,538	10,700	—
中学校第 3 学年	10,248	241	64	1,018,365	22,051	8,997	104

### 4 調査内容

(1) 教科に関する調査 (国語, 算数・数学)

#### 主として知識に関する問題 [A問題]

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

#### 主として活用に関する問題 [B問題]

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

#### 児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

#### 学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 5 各教科の平均正答率

#### 【小学校】

国語								算数							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
72.9	75.9	76.4	—	55.5	58.3	57.0	—	78.1	80.7	79.2	—	58.2	60.1	60.4	—

#### 【中学校】

国語								数学							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
79.4	80.1	79.0	73.2	51.0	50.9	49.8	41.4	67.4	68.4	66.9	60.8	59.8	60.5	59.7	52.8

## ○ 各教科の評価の観点別結果

### 【国語】

分類	区分	A問題 平均正答率(%)			B問題 平均正答率(%)		
		福木中	広島県	全国	福木中	広島県	全国
評価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	——	——	——	——	——	——
	話す・聞く能力	64.2	73.1	72.3	——	——	——
	書く能力	78.0	84.3	83.4	28.2	41.8	41.0
	読む能力	78.1	83.3	82.9	39.0	49.5	49.2
	言語についての知識・理解・技能	72.1	79.2	78.7	46.1	57.1	56.8

### 【数学】

分類	区分	A問題 平均正答率(%)			B問題 平均正答率(%)		
		福木中	広島県	全国	福木中	広島県	全国
評価 の 観 点	数学への関心・意欲・態度	——	——	——	——	——	——
	数学的な見方や考え方	——	——	——	50.6	58.5	57.9
	数学的な技能	66.3	69.5	68.2	——	——	——
	数量や図形などについての知識・理解	56.9	67.6	66.8	82.5	87.7	87.5

## ○ 主な課題と課題解決に向けた指導について

### 【国語】

#### 重点課題

- 古文に関する基礎的な知識（仮名遣いなど）の定着が不十分である。
- 書くことに関して苦手意識があり、無解答率が高い。もともとある言葉、文章を組み合わせる書くこと、自分の考えの根拠を明確にしながらかくこと、ともに課題がある。

#### 重点に対応した改善指導内容及び方法

- 古文に関する基礎知識については10月中旬から重点的に授業で取り組む。授業での取り組みだけでなく、1月、2月にも復習テストを行い知識の定着を図る。
- 毎時間の授業の終わりに「授業のまとめ」を書かせる。授業のめあてを受けてまとめが書けるよう適宜キーワードを与えるなどして短文を作ることに向き合わせたい。

### 【数学】

#### 重点課題

- グラフや文章から数量関係を読み取ることや、それらを文字式として表現すること、それぞれの数量の関係を表すことが苦手である
- 比例・反比例と、1次関数とが混同してしまう
- 作図・立体図形など平面・空間的な感覚に弱い

## 重点に対応した改善指導内容及び方法

- 四則演算や文字の計算などは日々の小テストを中心に組み、正答率が高くなってきている。問題は、自分で文章の中の数量を理解し、どのような数量関係が成り立つかを見つけ出し表現する力が弱いことである。
- 演習問題の中では、簡単な図や絵を入れることで、イメージを持ちやすくしている。また、なるべく具体的に身近なものを用いた問題を提示し、問題自体への苦手意識を少しでも減らしている。
- 数量の関係性を理解する力は、想像力が必要であるが、同じく図形、特に空間図形について、頭の中で辺や点の関係を思い浮かべることが出来ない生徒が多い。これについては実際の立体モデルを視覚的に使用することで対応しているが、忘れてしまうことも多いので復習をするときにも立体モデルを活用するようにしている。
- 比例や反比例、1次関数（今後は2次関数）と、混同をしてしまい単純な計算ミスをする場面が見られる。こちらも小テストを中心に繰り返し基本的な問題に取り組むことで、それぞれの違いや特徴などをはっきりと理解させたい。

## **6 本校生徒の生活や学習について(アンケート調査の結果)**

- 「朝食を毎日食べている」が84.5%（全国83.8%）で、きちんと朝食をとって登校できている様子がうかがえます。しかし、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」が23.3%（全国29.4%）、「毎日同じくらいの時刻に起きている」が53.4%（全国55.8%）となっており、特に就寝時間については定まっていない生徒が多いようです。
- 「平日1日にテレビやビデオ、DVDを3時間以上見たり聞いたりする」生徒が31.0%（全国31.5%）全国平均と同じくらいの割合で、「平日1日にテレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）を3時間以上する」生徒は11.6%（全国20.3%）と全国に比べて少ない傾向にありました。
- 学習面では、「1、2年生の時、授業のはじめにめあてが示されていた」が61.2%（全国32.9%）、また、「1、2年生の時、授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていた」が35.9%（全国15.6%）と全国に比べ、授業のめあて、振り返りがなされていたことを表す高い数値が出ていました。
- 4月の時点では、「家庭学習を平日で1時間より少ない26.2」が30.1%（全国29.0%）、「家庭学習を休日で1時間より少ない」が72.7%（全国59.6%）と、家庭学習の時間が全国の中学3年生と比較して少ないという課題がありました。しかし、「家で、学校の宿題をしている」が65.0%（全国63.7%）、「家で、学校の授業の予習をしている、どちらかといえばしている」が52.4%（全国50.4%）と、家庭学習の習慣は全国に比べて確立しているということが分かりました。今後も教科担任と学級担任が連携をはかりつつ家庭学習充実への指導・支援を継続してまいります。